

平成24年度（25期）事業報告

（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）

<総括>

第25期は、理想人材育成を目指した「CSP（キャリア・サポート・プログラム）と高等教育機関としての質の向上を目指したFD（ファカルティ・デベロップメント）の継続推進」をスローガンに1. 健全な校運営 2. 質の高い授業運営と教育実績の向上、2. 多様な学習ニーズに対応した受入制度の整備 3. カリキュラム改善に対応した施設設備の充実 4. 「新制度」創設にむけた準備検討を基本方針に、具体的目標として 1. 経営目標の達成 2. 情報センター予定全業務の稼動・活用 3. 産・学・官連携事業の推進 4. 聴講生・単位履修生・編入制度の見直しと通信制・単位制学科設置に向けた検討、 5. 教務体制の強化 7. 新制度創設を想定した準備・検討 8. 施設設備の新設・更新・改修に取り組んだ。

経営目標においては学生募集、事業収入ともに順調で、平成24年度単年度収支も大幅な黒字となった。

教育成果面では、本校の目指す教育の到達点を再確認し改善したことや教育の質とレベルの向上を目標に教員研修の実施、産学官連携の強化、教育成果の対外的評価などを課題として盛り込み臨んだ。特に、熊谷市の市民協働「熊谷の力」涼しさ体感アート事業における熊谷駅、籠原駅の階段アート作品の展示やゲーム大賞への作品応募、産業界や行政・諸団体などから作品審査員や来賓・招待客を招き、初の卒業研究発表会の開催など大きな成果をはかることが出来た。この結果、次年度においても市民協働「熊谷の力」熊谷発！ビジネスコンテスト事業を新規に受託することが決定した。

就職面では、なかなか好転しない状況の中で昨年度の就職内定率98.1%を越える目標に取り組んだ結果98.9%まで延ばすことが出来た。

また、施設設備の充実をめざし実習用教育機器・機材の更新はもちろん、全国の専門学校では類を見ないICTと融合した空間を最新鋭に保つプラットフォームシステム「スマートインフィル」をはじめ、昨年導入した情報の一元化・事務処理の効率化を目指したコンピュータシステムのフル稼動、在学生に向けた学校からのメール配信システムサービスなど稼動整備を進めてきた。残念ながら期の途中で計画した、求人情報をネット配信するシステムの稼動には至らず、次年度に向けた課題としたが当初の計画は予定通り遂行することが出来た。

これ以外では、キャリア教育・職業教育の在り方を問う一連の動きの中で、「新たな枠組」にむけ一定の要件を満たす課程の文部科学大臣認定をすとした、仮称「職業実践専門課程」認定要件を想定した整備を進めた他、地元行政が進める将来に向けた「まちづくり構想」に同期した学校づくりの中期計画を発表し動きだすことも出来た。

次年度においても引きつづき、この動きを止めることなく実現に向けて活力ある学校運営を目指してまいります。